

# 愛知県地質調査業協会の活動報告

愛知県地質調査業協会 会長 大久保 卓

愛知県地質調査業協会は、今年度県内に本社を有する会社11社と県外に本社を有する会社16社、合計27社で運営しています。年10回程度の幹事会を開催しています。以下に、4つの主な活動について報告いたします。

## 1. 広報活動

一般社団法人中部地質調査業協会の依頼により、7月に愛知県内の建設事務所、港務所、農林水産事務所及び市町村へ「理事長挨拶文」「土と岩」、協会員名簿などの資料を配布する広報活動を実施しました。

## 2. 研修活動

令和7年度は、愛知県の出先建設事務所3ヶ所にて出前講習会を実施しました。

### ・令和7年9月8日(月)

一宮建設事務所内にて、県技術職員と管内市町の技術職員合計38名にて実施。講師は、大石雅彦氏(中央開発(株)企画管理部長)です。

### ・令和7年11月27日(木)

知多建設事務所内にて、県技術職員と管内市町の技術職員合計30名にて実施。講師は、広瀬義純氏((株)アサノ大成基礎エンジニアリング技術部長)です。

### ・令和8年1月28日(水)

豊田加茂建設事務所内にて、県技術職員と管内市町の技術職員合計31名にて実施。講師は、広瀬義純氏((株)アサノ大成基礎エンジニアリング技術部長)です。

### 研修内容

「管内の地形、地質」

「地盤調査計画と調査内容の留意点」

「土質試験の重要性」等

尚、愛知県地質調査業協会では、特に地質調査業の必要性、重要性について県職員にアピールを行いました。



写真-1 講習会の様子(一宮建設事務所にて)

## 3. 災害時応急支援活動

今年度、愛知県内にての災害出動要請は1件で、会員の協力により出動要請に応えることができました。また、令和7年9月5日(金)に防災訓練を実施しました。会員各位の協力により、27社中26社からの回答を得ることができました。

## 4. 親睦を図る行事の実施

令和7年11月11日(火)に、協会主催の懇親ゴルフ大会を実施しました。参加者9社10名でした。また、令和8年1月16日(金)に、新年会を「梅の花 栄店」にて実施し、22社44名の参加にて、会員同士の親睦に活気あふれる集いとなりました。

今後も、インフラ整備の最先端に位置する地質調査業の必要性、重要性について広報活動に取り組み、社会に必要とされる協会として、会員一同、一致団結して努力してまいります。

# 岐阜県地質調査業協会の活動報告

岐阜県地質調査業協会 会長 大橋 大輔

岐阜県支部は、令和7年度の予算として約400万円にて運営しています。役員構成は会長以下、副会長、総務委員長、広報委員長、技術委員長、防災対策委員長、取引適正化委員長の7名で、各役員の指揮の下全協会員17社が一体となって活動しております。

当支部の活動は、中部地質調査業協会ならびに愛知県支部、三重県支部、静岡県支部と連携を図りながら、下記の事業計画を定め実施しています。

- ・広報活動の実施
- ・会員の技術向上を目的とする研修活動
- ・会員相互の親睦を図る行事の実施
- ・技術の向上を図る行事の実施
- ・関連学会、関連協会への協力と提携

本年度の活動について以下にご紹介します。

**1** 通常総会、県政報告会を開催しました。  
通常総会はホテルグランヴェール岐山にて会員17社の出席で開催しました。通常総会に続いて行われた県政報告会には、岐阜県議会より平野恭子議員、農政部より久保田農地防災対策室長、林政部より小木曾技術総括監、県土整備部より大西建設技術企画監をお招きしました。



通常総会

**2** 地質調査業の重要性と岐阜県支部の存在価値、認知度の向上を目指し、発注者への協会員名簿の配布・要望活動、建通新聞への広告掲載などの広報活動を実施しました。

**3** (財)岐阜県建設研究センターが実施する「県・市町村建設技術職員研修」へ講師を派遣し、地質調査の概要とその結果の利活用、県内の地形地質の特徴、構造物基礎の地質調査方法などの研修活動を通じ職員の技術向上に寄与すると共に岐阜県支部の広報活動としても大きな成果を挙げています。



市町村建設技術職員研修

**4** 岐阜大学地域交流協会および岐阜県社会基盤研究所等の研究発表会等へ参加し、地域の社会基盤整備に貢献しています。

**5** 岐阜県と災害応援協定を締結しており、災害時における災害状況の確認、二次災害の評価提言、地質に起因する原因究明、地質調査、緊急的な応急対策の提案等の支援体制を整えて対応しています。本年度は5件の要請があり、担当各社にて対応しました。

**6** 岐阜県県土整備部主催の災害応援協定連絡会議に出席しました。関係諸団体との連携を深め、役割の再確認をしました。

南海・東南海地震をはじめとする大規模地震への備えや、流域対策など災害に強い県土づくりには我々地質調査業者の役割は益々大きなものになっています。今後、当支部としては地域に密着した専門技術集団として、顧客の要望に応えるために協会員の更なる技術力の向上に努めていきたいと思っております。

# 三重県地質調査業協会の活動報告

三重県地質調査業協会 会長 伊藤 重和

三重県地質調査業協会は、昭和60年8月に会員10社で設立され、40年目の現在は14社(本会員4社・営業所会員10社)で運営しています。

## 1. 建設技術研修会

毎年、公益財団法人三重県建設技術センターの建設技術研修「地質調査」を共催し、当協会技術委員が講師として、三重県の地形・地質やリスクを踏まえた調査計画・手法、留意点や地盤定数の考え方など、実務的な基礎スキルの習得を支援しています。令和8年度は5月下旬に中部土質試験協同組合で、ボーリングや室内土質試験の見学研修を予定しています。

## 2. 三重大学アクティブラーニング(地学演習)

昨年度からの取組を発展させ、三重大学では、令和7年8月に県土整備部と連携し、生物資源学部の教員免許志望学生を対象に出前授業を実施しました。建設関連業への理解を深め、将来教員となる学生がその役割や仕事内容を正しく伝えることで、担い手確保につながることを目的としています。



三重大学アクティブラーニングの様子

## 3. 三重県アクティブラーニング(地学演習)

上記の大学における地学演習が三重県県土整備部にも有益であることから、県の中堅・若手職員を対象とする地学演習も、令和6年2月に続き令和7年12月に開催しました。地すべり調査の基礎復習に加え、実事例を用いた調査方法の検討、データ選択、機構検討、グループ発表までを行い、最後に実際の調査結果と解析を紹介しました。



三重県アクティブラーニングの様子

## 4. 地質巡検

一昨年は改修中であった福井県立恐竜博物館を訪れ、

手取層群の層序・堆積環境(河川～氾濫原)と恐竜化石の産状・タフォノミーを結びつけて示しており、地層断面・柱状図で産出層の位置づけが把握できました

また勝山駅周辺の九頭竜川周辺の巡検では、現河床に沿って低位・中位・上位の段丘面が階段状の地形を観察してきました。低位段丘(比高約5-10m)は砂礫層に薄いロームが被り、氾濫原と連続。中位段丘(15-30m)は更新世後期の礫層+風成ローム、上位段丘(40m超)は風化が進み平坦化。氷期の堆積→間氷期の下刻に、地域的な緩やかな隆起が重なって形成され、側谷扇状地が一部を切り込む特徴が見て取れました。



福井県立恐竜博物館にて

## 5. 三重県関係及び市町への広報活動

広報活動としては、県庁、企業庁、建設技術センター、出先機関や市役所等へ挨拶状や会員名簿、機関誌「土と岩」および「地質と調査」を配布し、PRと意見交換を実施。7月には7グループに分かれて各機関を訪問し、年始には本庁を中心に訪問しました。

## 6. 情報伝達防災訓練

毎年9月頃に(一社)中部地質調査業協会防災委員会が主導する、震度6弱を想定した情報伝達・連携訓練に参加し、体制整備と連携強化を図っています。

## 7. 三重県からの災害支援協力要請への対応

平成19年3月に三重県県土整備部と締結した「地震・津波・風水害等の緊急時における協定」に基づき、災害発生時には被災状況調査、復旧工法の技術指導、対応方針の助言を実施しており、本年度も要請に応じて関係機関と連携し、迅速に現地踏査・地質調査・技術的助言を行いました。

今後も、インフラの基盤である地形・地質に精通した集団として、地質リスクマネジメントを念頭にインフラ整備と地質災害対応に尽力し、社会に必要とされる協会を目指してまいります。以上、令和7年度の活動報告といたします。

# 静岡県地質調査業協会の活動報告

静岡県地質調査業協会 会長 松浦 好樹

静岡県協会は、現在15社全て県内業者で構成されております。令和7年度の年間スケジュールで大きなイベントとしては以下の通り行われました。

## 7月

地盤技術講習会

## 8月

静岡県交通基盤部との意見交換会

## 11月

国土交通省県内7事務所 所長 副所長との意見交換会・懇親会

ジオフォーラム2025 in 静岡

土木の日イベント

下田市 静岡市で参加

## 地盤技術講習会

主催：(一社)静岡県地質調査業協会

後援：(一社)中部地質調査業協会

日時：令和7年7月4日(金)13:30～17:00

会場：静岡商工会議所(静岡市葵区黒金町20-8)

参加者：168名

### ■中央構造線に近接する大土被りトンネル施工

安藤ハザマ 永井亮真

### ■大崩海岸に露出する海底火山噴出物の特徴と地すべりの関係

東海大学海洋学部海洋理工学科 教授 坂本 泉

### ■浜当目トンネル周辺における斜面変動の状況

静岡大学 教授 今泉文寿



## ジオフォーラム2025 in 静岡

主催：(一社)静岡県地質調査業協会

後援：(一社)中部地質調査業協会

(一社)建設業団体連合会

協賛：静岡県道路協会

全国治水砂防協会静岡支部

日時：令和7年11月14日(金)10:00～17:00

会場：静岡理科大学M20ビル 4階ホール

参加者：148名



令和7年11月8日(土)

土木の日イベント 下田市